其由縁
由の美節

己酉
規春

五編
上冊

ひらがな
ひらの
画彩

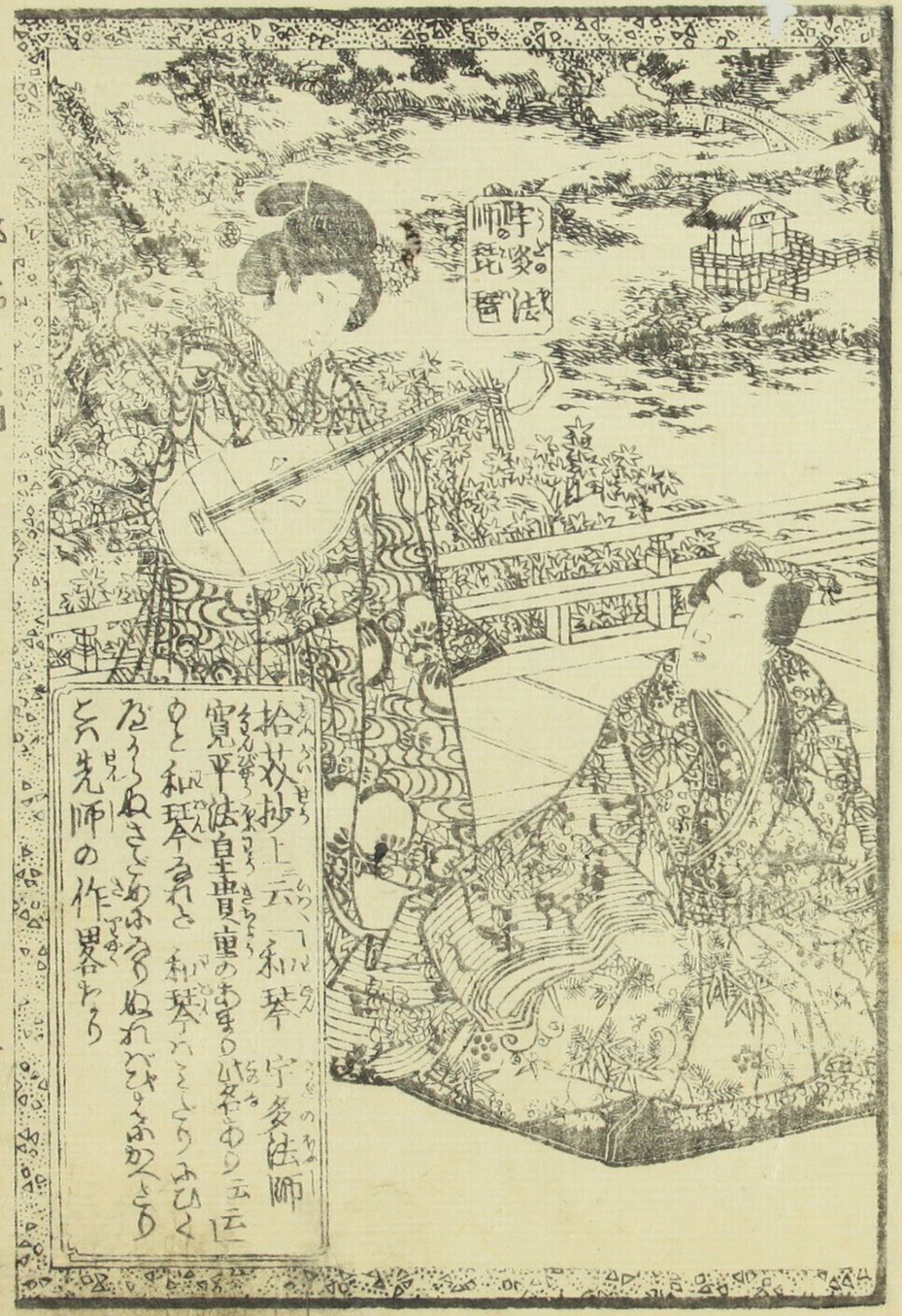
一筆奇作
豊画

錦林仙鶴二書房梓

竹取空穂伊勢大和諸の物語皆往昔の讀本也更ふ物語かく書るふわ〻紙ど今
のごとく際〻〻く人名のりゝ〻年號月日細密ふ記されい男も女も百官名源氏ゑゑ
惟光良清其外ふ人名知るぞ加之昔の俗語も今より見れば推文ふ耳遠ゆゑ
注を読ても十ふ七八朧月夜ふ梅看るゆゑ物〻の對面ふ分解ふ〻で不會得文義訳く
い譯る点ゆゑかれば長の年月の間でハ何処で歳ゑ暮ゆゑまれど年表とさへ昔より錯
へて人の年齢ゑど勘定の合ぬれふ思ひあたるも有と云へ過て改るに憚ことゑれとゆゑ今更
ゆゑも面伏ゑゑゆゑ未崔院ふ擬へ義尚公と三四編ふ當時の武將と記〻濃菖蒲を音ふ
ふい立義植公ふ有りけるをふと義尚とゑ〻ゆゑも實急作の粗忽ゆてまゝ真木柱と梅枝の
間ふ一年たつを忘れ極樂寺の法會とハ小鉢の一周忌とせーとハ三回忌とあゆ〻めゑ叔此編
ふ真木柱ふ説脱せゑ補ふ例の狂言所〻ふ加へ藤裏葉ふ木の実を拾ゑ次編ふ弥上の若菜来唐
土の鳥のトゝく拍子ふ智慧の代表の底をたゝいて初春の御慶と共ふ松の内ゑ販出ゑ

嘉永二年酉新刊

一筆奇主人

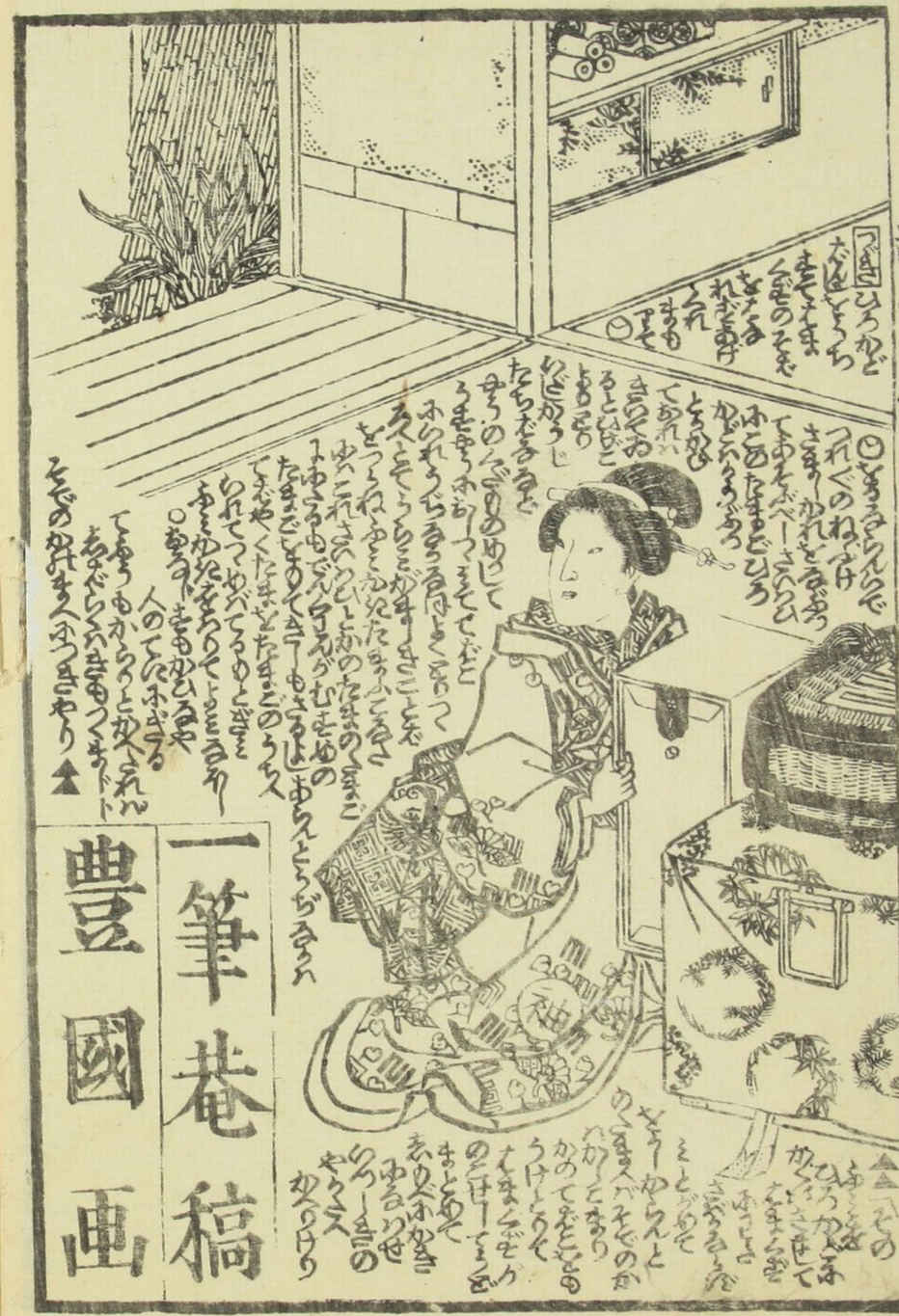

拾芥抄上云 和琴 宇多法師
寛平法皇貴重のあまりの御琴云云
和琴 琴ことのおひく
先師の作器なり

六條御所
清あそびの圖
よのつねの
琴あるとや
いはん乃
あるはよ
ひるの
夜の
琴

待合

四

袖



一筆菴稿
豐國画

同行笠
名所絵

滑稽富士詣

仮名垣魯文戯作
歌川芳虎画

富士山開闢の御縁年より當[illegible]女人の登山を許されたるとて帰路の途中[illegible]同行の老若男女。士農工商藝人遊客田舎侍[illegible]登りの[illegible]直走り下山[illegible]帰路[illegible]東海道を促せし途中箱根七箇の温泉場より[illegible]遊行吉大山詣横賀見物婆婆の郭に酒落[illegible]当時の流行を繫ぎ[illegible]東都帰着[illegible]巻中毎編雅俗と見[illegible]流行里言のところ[illegible]

[illegible]

實地ふらふら[illegible]作者の丹精一面[illegible]脚色筆談腹[illegible]

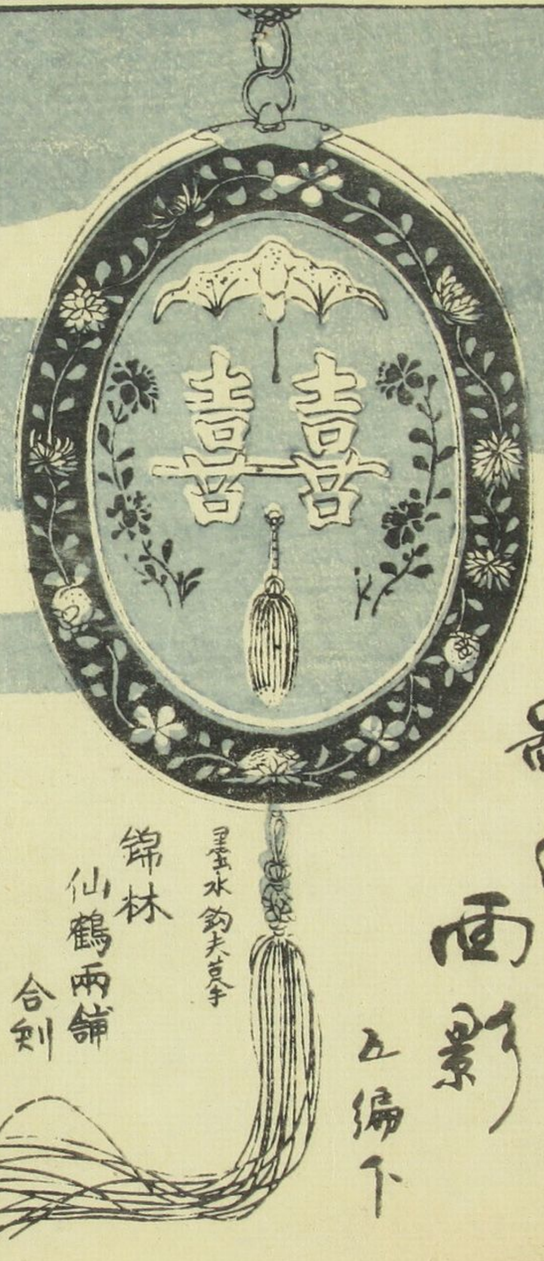
[illegible]序文編毎ごとに東都雷名の通客等が狂文小筆と輝ひ錦[illegible]

[illegible]本ト編ニ巻末後出板仕の間乃求ひる[illegible]の紙幅[illegible]板元錦昇堂仕[illegible]

地本繪草紙問屋　照降町　笑壽屋庄七梓

己酉新彫

一筆庵作



鄙の面影

五編下

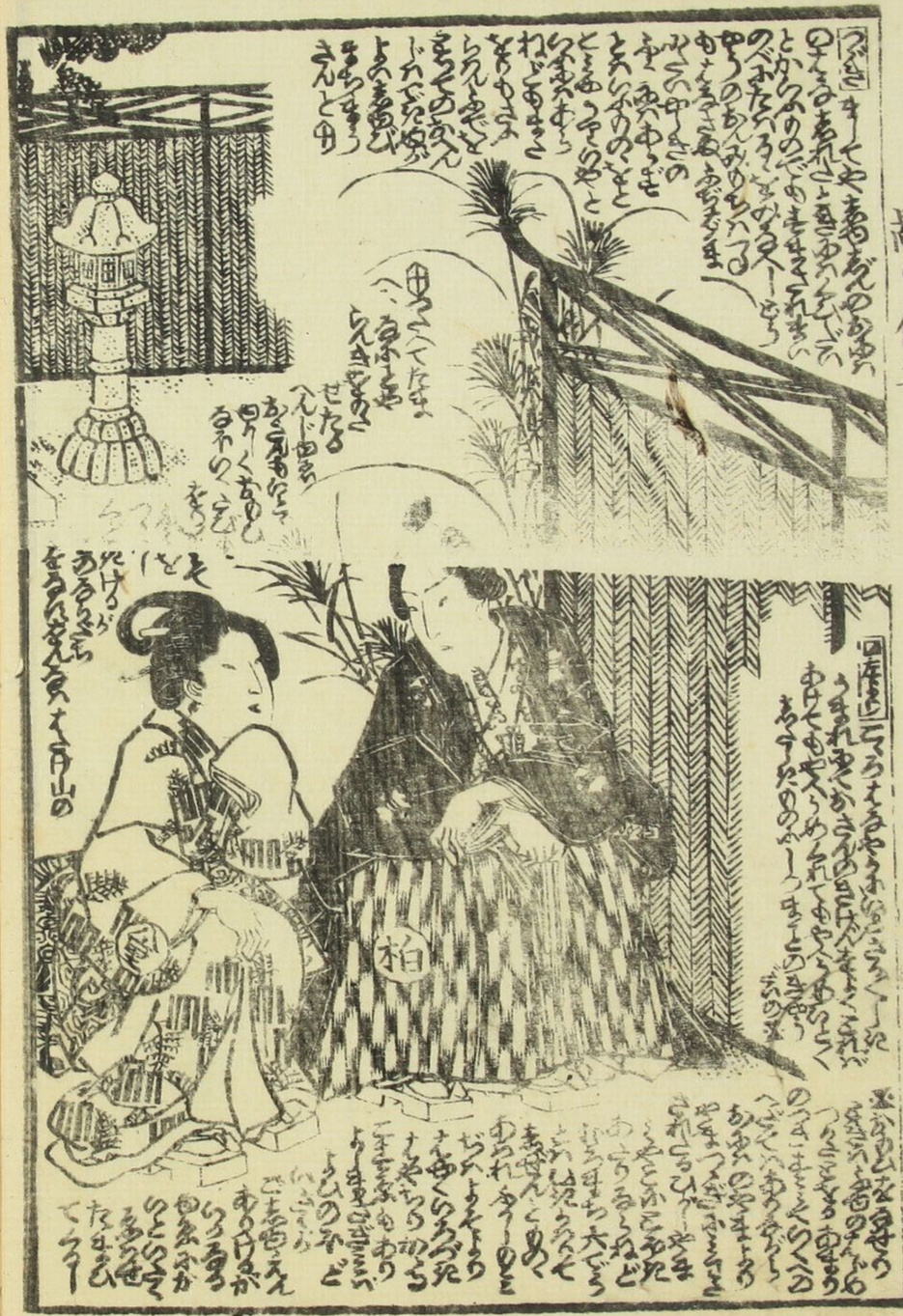
墨水釣夫豆今手

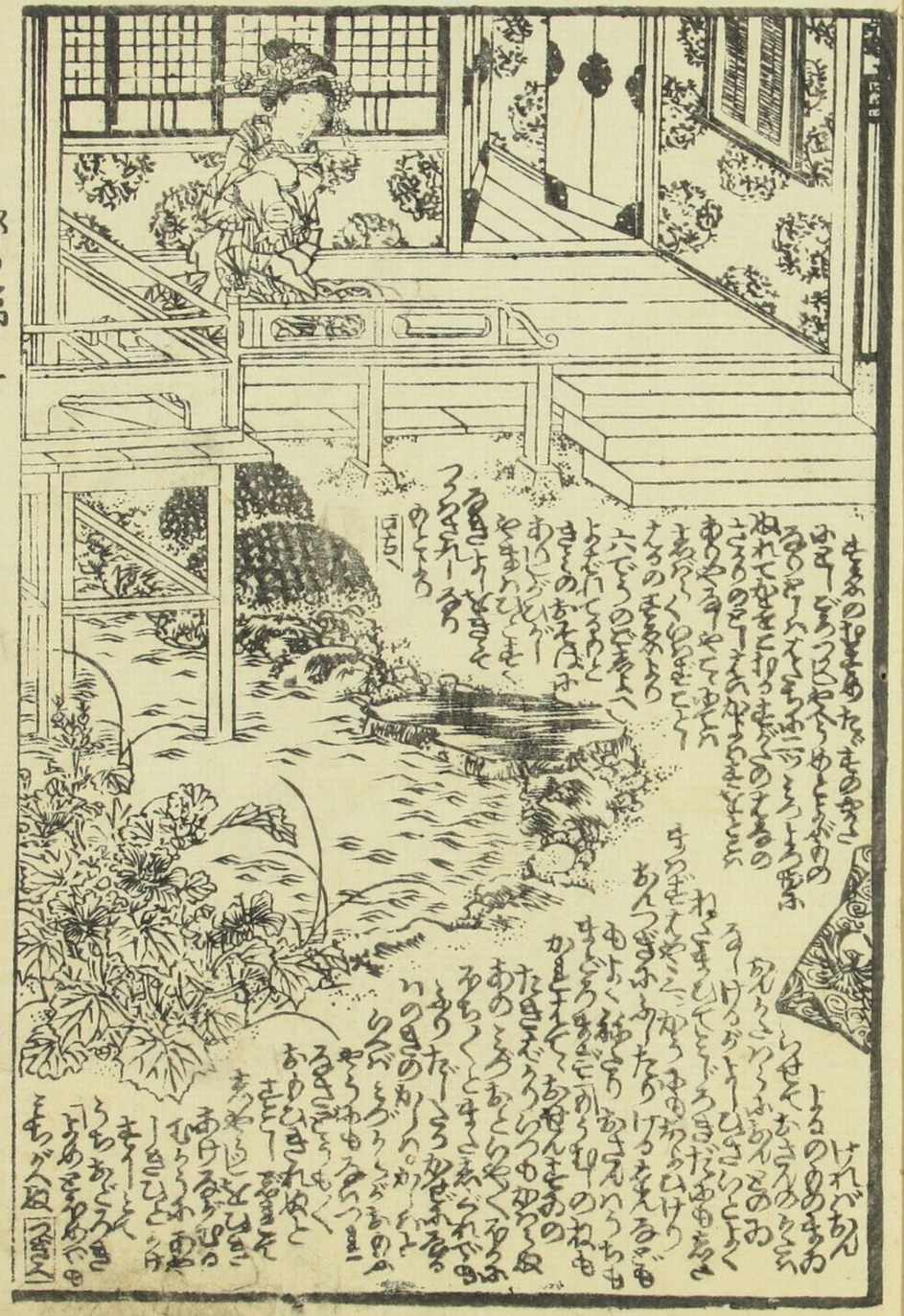
錦林
仙鶴兩舗
合刻

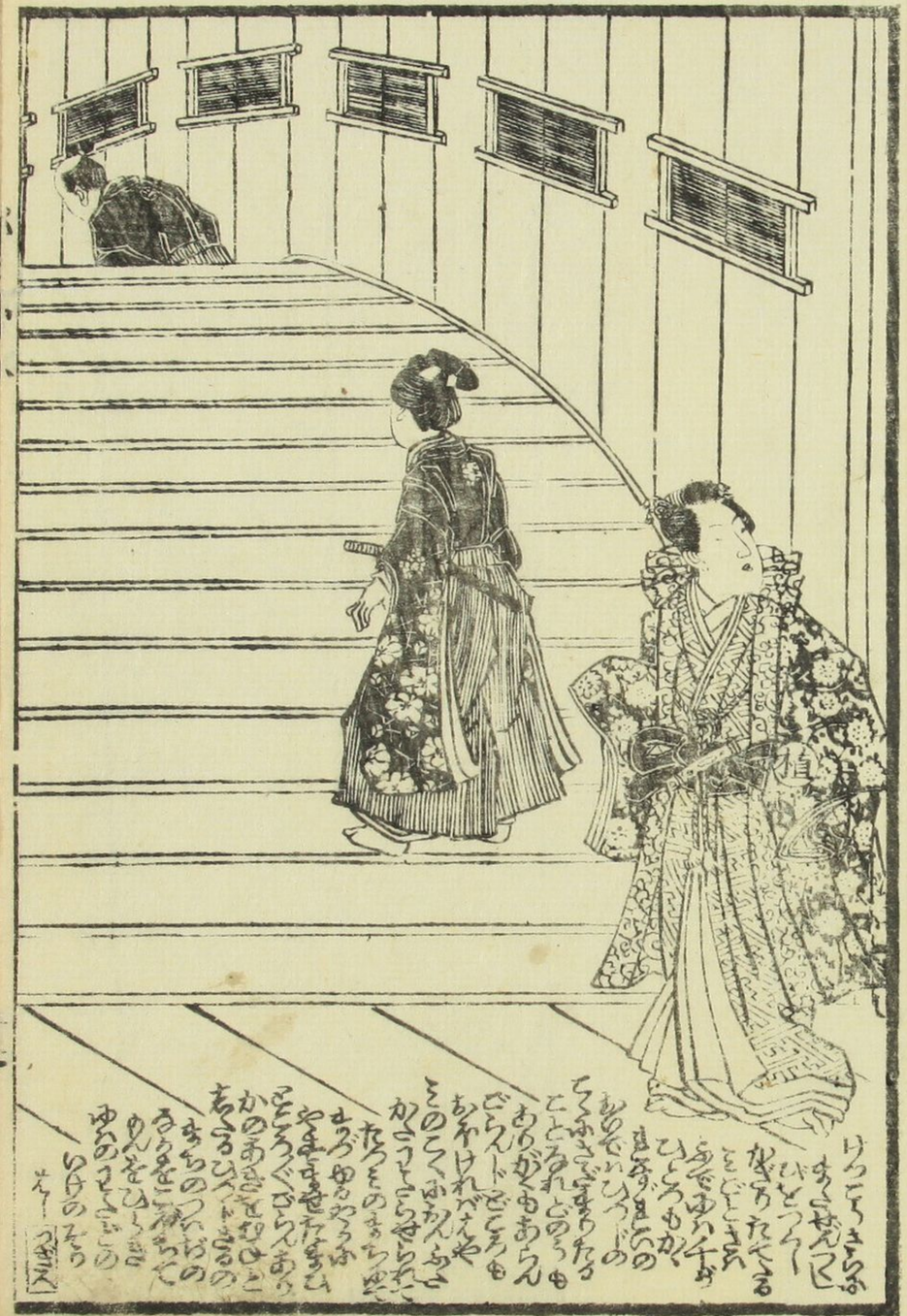
豊国画

松濤文庫

富士の伝説


柏





豊國画一筆莽稿

稲妻形

怪鼠標子七編

樂亭西馬稿
曽文作
國明画

其由縁鄙侠

二十編 種彦作
二十一編
二十二編 國貞画

十勇士尾子の礎

五編 曽文作
六編 芳虎画

雨夜鐘四谷雑談

九編 曽文作
十編 芳虎画

比奈乃都火内譚

三 緑種彦作
四編 芳虎画

地本問屋 江戸てりふり町 ますや 庄七

其家の傳

五編

一筆菴作

一陽齋豊國

賀君恩の春之糸を
枝延童の結ふかな

豊國門人
国貞画

合三